

## 平成 30 年度 第 4 回大阪支部評議会の議事概要

<b>開 催 日</b>	平成 31 年 1 月 17 日（木） 10：00～12：08
<b>開 催 場 所</b>	全国健康保険協会大阪支部 会議室
<b>出 席 者</b>	有澤評議員、内野評議員、北山評議員（議長）、中田評議員、 原評議員、松井評議員（五十音順）
<b>議 題</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成 31 年度 保険料率について</li> <li>2 平成 31 年度 大阪支部事業計画（案）について</li> <li>3 平成 31 年度 大阪支部の取組みにかかる経費（案）について</li> <li>4 平成 31 年度 インセンティブ制度について</li> <li>5 その他</li> </ol>
<b>議 事 概 要 （主な意見等）</b>	<p><b>1 平成 31 年度 保険料率について</b></p> <p>事務局より平成 31 年度保険料率について説明し、欠席評議員意見を紹介。</p> <p>《欠席評議員意見》</p> <p><b>【学識経験者】</b></p> <p>医療費削減に向けてあらゆる施策を取り、将来的には保険料率を下げられるときには下げるようにすることを検討すべきである。</p> <p><b>【事業主代表】</b></p> <p>準備金が積みあがっているため、各支部とも平成 30 年度都道府県単位の保険料率を維持すべきと考える。</p> <p>《主な意見》</p> <p><b>【事業主代表】</b></p> <p>積立準備金残高からみて経営者としては保険料率は下がる方が有難いが、高齢化により今後医療費の増加が見込まれている。それに備える意味でも現状維持が妥当と考える。</p> <p><b>【学識経験者】</b></p> <p>高齢者の増加の伸びが 2025 年にピークを迎えるため、今後医療費総額は下がらない。そのため中長期的に考えた場合、平均保険料率を上下するよりも、10%の維持が良い。</p> <p><b>【被保険者代表】</b></p> <p>被保険者として保険料率は低い方が良いが、今後高齢者の医療費が増えていく中で、一度保険料率を下げた場合、次に上がるときに抵抗感がでるので、現状より上げないように努力する必要がある。</p> <p>一人当たり医療費の地域差指数の伸びが全国と比べて大阪の伸びが大きい理由を教えてほ</p>

しい。

**【事務局】**

今後、本部より協会版 SCR に関する統計資料が提供されるため、分析し、検証結果をお示ししたい。

**【被保険者代表】**

中小企業の実態として大阪の賃金が上がっているとはいえ、それは人手不足により仕方がない「賃上げ」であって、企業が成長しての賃金増ではない。保険料だけが上がるとますます加入者の理解が得られないため、今は平均保険料率を下げるべきと考える。

**【被保険者代表】**

健康保険料率については 0.02%増なので、平均保険料率は 10%の据え置きでやむを得ないと思うが、介護保険料率の 0.16%増の負担は大きい。要因は何か。

**【事務局】**

介護分の収支見込において、平成 30 年度末に見込まれる 401 億円の不足は、介護納付金について、平成 30 年度政府予算案策定時に国から示された予算額と平成 30 年 4 月に診療報酬支払基金から示された実際の賦課額の間で計数に差が生じた影響である。

**【学識経験者】**

協会けんぽの収支見込で単年度収支と準備金が去年より増えているのは、良いことではあるが、翌年度以降も増えてくると「医療費が増えるため保険料率を下げることはできない」という言葉の説得力に影響が出ると考える。収支見込が大幅に変わったのは何が考えられるか。

**【事務局】**

来年度協会けんぽの加入者が全体の 5.1%増える見込みとなっており、そのうちの 2.1%（約 60 万人）は平成 31 年 4 月に 2 つの大規模健康保険組合が解散することによる増である。加えて退職者給付拠出金の精算分・診療報酬改定・扶養率の低下・標準報酬月額の上昇があるため、収支見込に影響が出た。

## **2 平成 31 年度 大阪支部事業計画（案）について**

事務局より平成 31 年度大阪支部事業計画（案）について説明。

《主な意見》

**【被保険者代表】**

それぞれ KPI が示されているが、率や人数など現状の数字が記載されていない項目もある。

**【事務局】**

来年度の事業計画説明の際には、参考資料として KPI 進捗状況をお示しする。

**【被保険者代表】**

健康保険証の回収について、事業所訪問について疑問である。実態としては有給消化をして退職する方が多いので、被保険者から回収するほうが効果的と考える。

また、債権回収について、視点を変えた回収方法を検討していただきたい。

**【事務局】**

被保険者証の回収は直接被保険者に勧奨するが、既に事業所に返却済という回答が多数であったため、事業所訪問を実施することとなった。

**【被保険者代表】**

ジェネリック医薬品について、若い世代は薬を飲む頻度が少ないため、ジェネリック医薬品で保険料率が下がるという意識にならない。保険料率が下がる以外の広報を打つべきではないか。

**【事務局】**

ジェネリック医薬品軽減額通知を送付することで、約 4～5 割の方がジェネリックに変更しているという実績もある。医師会等の医療関係団体も取組みをしているので、改めてジェネリック医薬品使用が広がるように大阪府全体で様々な取組みを実施する。

### **3 平成 31 年度 大阪支部の取組みにかかる経費（案）について**

事務局より平成 31 年度大阪支部の取組みにかかる経費（案）について説明。

《主な意見》

特になし

### **4 平成 31 年度 インセンティブ制度について**

事務局より平成 31 年度インセンティブ制度について説明。

《主な意見》

**【被保険者代表】**

平成 30 年度上半期のデータを用いた実績の上位 5 支部のホームページを見たが、事業所担当者をやる気にさせるような広報内容だったので、大阪支部もホームページに工夫した仕掛けをしてはどうか。

## 5 その他について

事務局より地域医療構想調整会議の開催状況・大阪支部イメージキャラクター等について説明。

〈主な意見〉

特になし

### 特記事項

- ・傍聴者なし
- ・次回開催：平成31年3月予定